国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

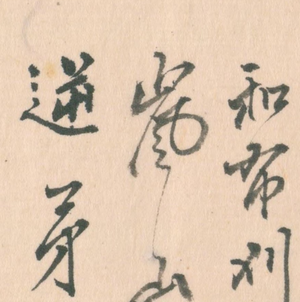
ガラス使用

帝国図書館蔵書

大正
6. 4. 13
購求

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

九世戸

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

九世戸

装束之覚

大小坐附地謡坐附　正面先ニ作物出ス

作物羽衣ノ通（但両角ニ龍燈臺二ツ　杉ノ葉ニテ作）

一面　小牛尉　襟アサギ　着附小格子　シケ水衣

腰帯ドンス　釣棹カタゲ　尉髪　釣糸

後

一面　黒髭　襟花色　着附厚板唐織　半切赤地金入

法被　腰帯紋付　赤頭　鉢巻赤地金入

龍　臺　杖腰ニサシ　龍燈持

一前連男

ハナシ髪　襟紺　ノシメ　寄水衣　腰帯紋付

扇子

一天女　面連面　襟アサキ　着付箱　白大口

長絹舞衣ニテモ　腰帯紋付　天冠　葛

葛帯　扇子腰ニサシ　龍燈持　黒髭

委附

サシ目付柱ノキワヘ行

目付柱ノキワニテ右ヘ少クトビ辺リ下ニ居

右ノヒザツキ左ノヒザメテカシラヲトリ

天女ヲ見ヲクル

●なし　まみの目ふ玉津乙女乃

大小坐ニツクト作物

正先キヘ出ス

九世戸

朱シテ附

藍ノ具　天女附

墨初ツレ

風も深しき桜衣くゝあさ立ゐて

とりき紀　桜は是ハ尚今小付へなり

ほ下なれば供と丹後国九世戸ニ祥

代乃古跡にて来ると天竺五臺山の

文殊を勧請の地なれば殊ニ林稀なれ

彼今式

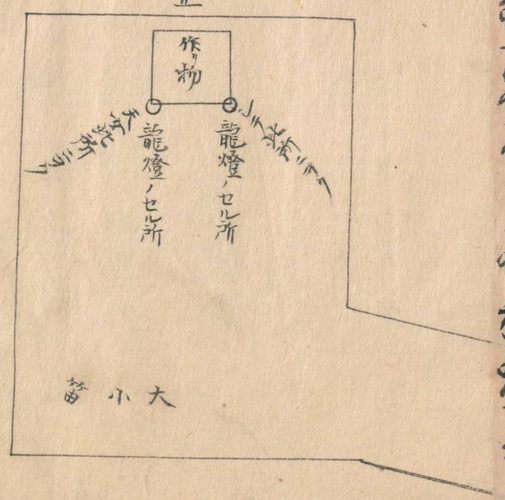
[illegible]

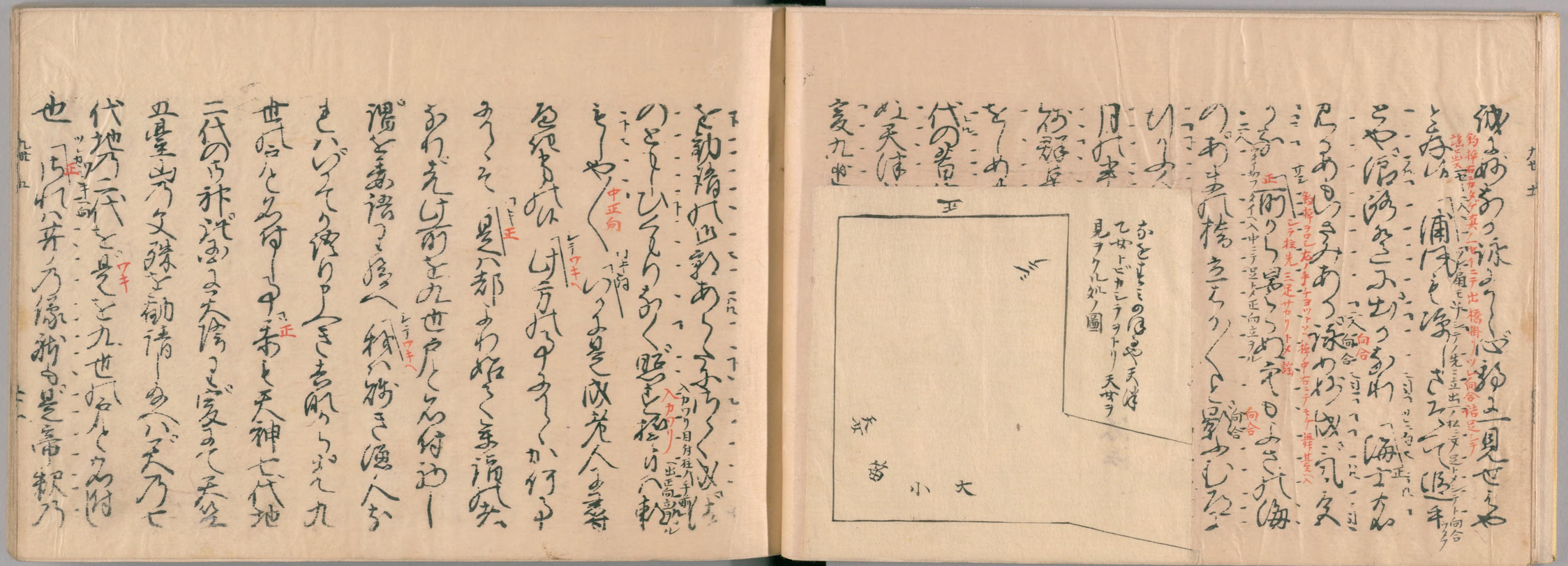
桜の衣

[illegible]

戸ニ出

[illegible]





国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

作ようや 其は能文に入るひばをもめ
て 猶もあくまで 此時に立り始て 則物
に 御りて 此に絶ぬ 諸事 諸
神 此燈を 持ち 天より 天人 降天
乃 能 神 此 燈 此 松 ゑ 出 を 並
御 の 問 言 ひ 也 有 願 かり 時
高也 松 神代の昔 今に絶せ
ぬ 此 松 に 持 る 此 燈 を まのあたり 拝 ま
ゑて 有 願き 中 此 御 を 上
出 る 月 も 晴 り 御 也 天 此 橋 立 ま
そ 都 此 人 も 浦 人 も 此 此 思
る 事 ゑ 四 方 乃 詠 め も 面 白 や 松
風 も 音 志 き 立 る 彼 も 白 か 代 ゆ

流の 浮 気 多 引 史 地 神 二 代
此 神 始 て 寝 に 天 降 て 末 世 乃 荒 生
海 度 此 為 に 其 像 を 勧 請 志 ゑ つ
されし 此 地 周 闕 の 昔 ゑ や 神 西 に 坐 ら
加 様 の ぎ さ ら 此 祭 ゑ 此 荒 生 海 度
乃 方 役 志 や ら し の さ し を 左 ま ん と て
三 世 覚 母 の 大 聖 文 殊 を 此 時 に 要 並
志 給 ひ ら わ 此 橋 立 を 作 し と 勧 請
有 し 其 此 神 乃 代 ゆ ま に を か ら ひ
雲 霧 虚 空 に みち く て 是 ゑ 乃
ま く 成 し ゑ 各 志 し 火 を 出 り て 日
本 に 去 を 運 ひ く 同 く 松 を 立 へ 給 ま
其 灯 乃 絶 り を 加 し こ に を 也 ゑ ひ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

江野島

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

江ノ嶌

装束之覚

初シテ　面矢尉　尉髪　襟浅黄　小格子厚板（中格子ニテモ）
太シテ水衣　尉腰帯　釣竿　扇（公用ナレハ大口　一通リナレハ着流シ）

ツレ　放シ髪　厨斗目　寄水衣　紋付腰帯
釣竿　扇

天女　面ツレ面　カツラ　同帯　着付箔
大口　舞衣　腰帯　黒垂
天冠　黒骨扇　玉（盆ニノセル）

子方二人　黒頭　着付箔　水衣　腰帯　扇
又
カツラ　同帯　着付箔　腰巻
扇

後シテ　面（黒髭　大飛出ニテモ）　赤頭　赤地鉢巻　着付（厚板　唐織）
半切（赤地）　狩衣（紺地）　紋付腰帯　龍
龍左　神扇　赤状

作リ物　大宮　一疊臺

後シテニ用ル龍ハ頭龍トテ龍ノ及ハ五ツ有龍ヲ用ル由ニ無之ハ
ソヽ常ノ春日龍神竹生嶋等ニ用ル龍ヲ用ルトテモ不苦

天女舞附

天女扇前ニサシ初ヨリ作物ノ内ニ入テ出床机ニ腰カケ
玉ヲ盆ニノセ両手ニテ持居童子左右ニ下ニ居左右ヲ
らけて引込シトル●左生欣度ノ返シヨリ立臺ヨリ下
ル●先海家ヨリ正面ヘ出●曇ノ風正ヘヒラキ●君よさ

さけんとワキへ向ワキノソバへ行下ニ居左ノヒザヲテヲ
ヌイテヒサツキ玉ヲワタス心ニテワキノ前ニ両ヒニテラキ●箙
ヲ左ヲ立扇モテ右ヘトリ袖ノクユトリナカラ天ノ前ニ行
羽袖ヲ返シト正ヘヒラキタツハイ氷●氷ノトメシ
テ柱ノキワニテ足リ下リ左右ヲ返ヒラキ●天人奎瓦
左右ヲ返ヒラキ返シニ身ヲ直シ●かくやと思ひ正ヘ出
●うくくろてヒラキ●ちやて次シテサシ回シ右ヘ
足リ右ウケ直ニシテ柱ノ方ヘ行左ノ御ト幕ノ方向
ゑんノ前ノヒラキ早笛ニナリ前ノ〳〵ヘトリ笛坐ノ
上ヘ行童子ノ前ノ居ル●衣ヲ召ハ立ニ足出カケ
シテニ向ヒ居立●ヒ附乙招ハト立直ニ入ル

子方舞附

二人ヒ基ノ上ニ天女ノ雨ワキニ左ノヒサ立テ右ノヒ
サツキ下ニ居●流星次ノ返シヨリ天女トニシヨ
ニ立基ヨリヲリ●次ノ謡ヨリ一シヨニ出カケ●次ノ謡
左ヒ氷ヨリ二人ヒ左ヘトリ笛坐ノ上ヘ行右ヘトリ
ワキ正向下ニ居●ヒ附天数ハ童子ヲ立天女ノ左
右ニツキ居ル

ツリサヲ本ノ方糸クル処目分科ニテイカ様ヒ豆シ
キ板シテソレヒ初ノ出右ノ本ノ方糸クリタル処右ノ手ニモ
チカタゲ出ル

初シテヅレ附

一セイち砂ノ通釣竿カタゲシテノ先キニ立出一ノ松

ニテ向合訊●乾ろ〳〵訊キリ打切ニ正面ヘ直シ●か
つ民トシテト向合●神津瓜トウタイ切リ舞基ヘ入
ま中ヘ立正面●ろうらいくいトシテヘ向合●氏宝の
のノ字ヨリ入数掉後見坐ニテ後見ヘワタシ腰ノ扇ヲ
ヌキ持見台柱ノキハヘ行キ正向キ立居ル●うらいくう
トワキヘ向アトワキヘ向キづゲ●名ヲヲトシテヘ向●
初心のまワキヘ●謂ヲト正●万代の打切ニツレ坐ヘ行
正向キ下ニヲル中入ニ立シテノアトニツキライ序ニテ入ル

●天女持出ル玉形ハ玉ノ井ノ玉ト同様ニテ金ニテモ銀ニテモ豆シ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

シテ舞附

●真ノ一声扇前ニサシツリサホ右ニカタケ出高砂ノ通リツレト向合ツメ足シテ鳴津鳥ト謡出●阿さわらけト謡キリ正●裏衣ツレト向合●沖津風謡キリツリザホヲロシ右ノ手ニサゲ舞臺ヘ入高砂ノ通リ打切ヲキ、文江の鳴ハト謡出ス●おうらいりいのツレト向合●此国の此のノヒヾキヨリ左ヲ少シフミヒラキハヅメツレト入カワリ中ヘ行正●さんは此浦のワキヘ●是ハ頭陀天皇ふ正●海ハ浪ヲワキヘ●柳此鳴ハ正●海底よりワキヘ●かい〳〵たる正●或ハ祖志よワキヘ●阿さひハ鉄杖を正●おの〳〵是をツレト向合●あるかハ浪ヲワキヘ●是をかるり二足ツメル●謂を吹も正●阿りめてもワキヘ●実ハ蓋や正●やとりふワキヘ●此時を二足ツメル●よろつ代の正●今ハ打来右ウケ●此島のちりいハ正ヘ出シ出●国そ久しきヒラキ●若神ハ角ヘ行●さつけ悪神ハ角トリ左ヘ廻リ●たのめ松蘭なきシテ柱ノキハニテワキヘヒラキ中ヘ行ワキヘ向ナリニ下ニ居立●誘さすも絶ヤクヘトワキ謡フトキ正向ツリサホ下ニヲキ扇持トクト下ニ居ル水衣カタヲロス

水ハ山れり弟代ふし三山ハ手の
こゝ路よまり路とり堺中乃海
清浅とり白雲のやぬすとこ路
小とうそんひらきく翠屏あら
ものとり岩窟れ奥ものなる入て
滅したる岩尾のたさ波より落
らるものハ雲乃無熱池の池あふ
るとりや 深(シテ下)笑 無漏の仙人ハ此
池を志免て栖とし浜沱有縁の
教主ハ沙嶋よきとつて生成道
云く 二世(シテ下)安楽の沙嶋ハ沙(ワキヘ)
り粉をかけされ無き(打切 二正)愛に
又いましく武蔵相模の塚よ鎌

倉海月此間に海のさまといふ所
海あり彼の海に大蛇をめりて
身ひとりにして其かしら五川
あり澄準の鼻胡鬚のあきと
眼に白日をつれぬき小黒雲
をまつつり（十切三正）毛まハ神武天皇
より室に天皇の御宇迄ハ十
一代の帝猶を重七百余年の
孫んしを縁て國中（ワキヘ）にこうて
人をこれ（上下三正）景行天皇の御宇
に至り龍悪いよ〳〵ちかんなまた
人皆石窟に隠まれて三津笑
の聲浪りなし時に天鈴ハ龍

に向ひ海のあくなを知るかくし
教生成ことめ沙國の守護人とな
らハ夫婦のかたしいを我なれ
へし必ず堅く誓約し給へハ龍
王も是に感じつて今より教害
をこゝめて善心を思ひ龍の口の
明神（ワキヘ）と成給ひ西方を守護し給ふ
なり（十切三正）早（上下三正）時うたる夕雲の〳〵
かゝ乾神秘も大かた乃浦人いう
ていふしての神の告りや有難や
中（三下上）くなまや大君のみことかし
こ見勅に今そ感する忠（ワキヘ）報しを
あらハさむ故事から寄に御ゆく

勅（正）り恵を受ましとハそれ老
人ハ誰やらん　（シテ）誰とハ御老を誘
ひ也我ハ五頭龍　（上）今ハ又天（ワキヘ）祖の吏
帰の神と成し龍（居立）の口の明神と
ハ老人をうつへし　（正ヘ直シ立シテ柱ノ方ヘクツロキ）今宵の月に天
郡の所姿わり（左ヘトリワキヘ向ヒラキ）姿をそ顕に臨し
とせふ波ふたり（正ヘ二重ヒラキ返シニスル）ますきれつゝう勢
法ふ社あらたなまし　（早）波伯
ひ絶軌をさきふ所市張織ひ英
聲を始よりは是懸ひ労進弁
を天の　（上）ぞ量江邊不可思議
乃功徳を称く顕りしおもし
まは　（下）月を照そふ如意乃宝珠の

光りを誰ひ何ぬひ作ふ　（上）あふ事
ふ成し心のおとしぞ少時ハ
（下）今此君のそれと所最にあひにあ
ふ　（上）下和ひ玉をかにまし彼如意
宝珠を君に作きんと光りをかゝ
やく所殿乃戸立ら左右ふ開事
そ十五童に天祖のミ姿あらも
まとり　（上）夜生深度のその所方便
くも先福寿圓満の頼日続けへ
眼寿安化楽後生志ゆうしやうとく
そし恐宝珠を君に捧んと勅使
に是をさつき給日舞楽を奏
し柳子を揃へ羽袖を尽してま

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

▲舞働常ノ通リ上ノ処ノ以指子ニツアトヘ飛返リテモ正ニツグワツヲモイツレニテモヨシ

ひ給ふ 旨天人聖衆菩薩乃前も
くかくやと思日志波の立き
たる沖ゝ雲くらかつくもやる
次ことくさうあく瀬ハ五頭龍王
乃出現りや 早笛二段幕上右一ツウケサシテ左リヲ引キヒトヘ 浮ニ行リテ三足シツカニ出夫ヨリハシリ出ノ松ニテヒラキ強フ 我首ハふり沢の池
よりもむて五頭龍王と顕ま今ハ西
去乃守護神とかる龍の口ハ明神 正ヘヒラキ
也 上ノ例しにかハ思ねんハ乃 敢く 返シニ正ヘヒラキ手下ヘサケ
かうくハ五頭龍 上ノ胡髯のあきと 右ウケナガラ右ノ足一足フミ出
眼ハ白日をはかぬきたるは 右左右左ト面ツカヒ見
黒雲をまつつり苔むに松も 左ノ袖カヘシサシワケ右ヘ少ク回リ 舞臺ヘ向時 左ノ足右ヘ向ケ 面ヲ上ノ直ニ入
へ向に岩尾の滅くこるよにそ
シテ柱ノキワニテヒラキ 数指子フミ舞働
ましたる▲ 神仏水波の蒲 ニ 角ヘ行 なり

神仏水波の蒲なれも同一体の利 角トリ左回リ
益そさまくハ 雑賊天部ハ威 シテ柱ノキワニテ左ヘトリ天女ヘ向ムキザシツサシ出右ヲ引右ヘ飛返リ下ニ居立天女ト向合左ノヒザツキ居ル
光紙あらハし明神法ちよ百千 正ヘ左右ト二ツグワツ
劫の鈴を守らんと釣絡りた紀岩
間をつらいまくみとなてふみとり 立サシテ右ヘ回リ 袖カヘス 左右左右ヒ
乃海西飛行し給ハ 二一一一一 ハ 嫁うり波も シテ柱ノキワニテ正ヘヒラキ
たりの口の明神 サシ出デ 岩ちまた威を
振日雲をふきあらしにかくや ヒラキ左ニテ左ヘトリ右ノ足ア
ヒキ 上下ヲ面ツカイミスグニ右ノ方ヲ右左ト面ツカイ見
く眼の光ハ天地に満ちてりや 飛返リ笛坐ノ方向下ニ居立ヲヌトリ天女ヲミラクリ袖カブラズ是ハ龍立ノアルエヘナリ サシテ角ヘ行
時天部ハ童子紙伴い紫雲
のうくよあらハ 立左ヘトリ正ヘ出正 先ニテ左ヲノリ込ミ
給ハ明神立
ら新黒雲に紫し 正向左ノ袖返シサシワケ右ヘ少クニツ回リ
光紙もなり
く鴻根を出りめくり 正先ニテ左ヲフミ込 左ノ袖巻左ノ足フミ
スグニ右ウケナガラ左ノ手高クアゲテ正先ヘ出高砂ノ通リ

ヒラキ右ノ足左ヘカケテシテ柱ノ方向ナガラ右ノ
袖ニキシテ柱ノ方ヘ面キリシテ柱ノキワヘ行
しゝ 花はさりし 湯をこそ中
にあらいし えしくすりくを雲
シテ柱ノキワミテ小辺リメ両袖正ヘナゲテモ
ドシヒラキ左ノ袖カヘシ
中ふあらいはもまに有かしと紀
右ウケ二足ツメ
歌 向 入ル
ゝ邦

又

右ウケ
邦ゝ方ち浦お威をふくいをふく 正ヘ直シ出 光よりやく眠
左右左ト西ツカイ見
ヒラキ左ミテ左ヘリ
の光リハ

又

●その身ふ悪雲のまつつりたノ袖カヘシサシワケ右ヘ廻リ帰
しなるよふそト一ノ松ニテラシカンヘ左ノ足フミカケ左ノ袖カ
ヘシ笛働吹キ出シ足ヲロシ舞臺ヘ入直ニハタラキ左数拍子
フマズ直ニ角ヘ行アト同断

天女童子花ビ様ノ圖

正

童子二人現あ世比永ヨリ笛坐ノ上ヘ行
下ニ居ル処ノ圖
天女早笛ニナリ此圖ノ如ク童子ノ前ヘ
行下ニ居処ノ圖

天女童子
一畳臺

天女童子臺ノ上ニ花ビ居処花ニ出現ハ小ト雲ノ前ノ処ノ圖

正

大宮
童子 天女 童子
一畳臺
大小笛

大小坐ツクト一畳臺
大宮ノ内ニ天女童子
二人ハイリ引込シ
カケ出ス天女持ツ
処ノ玉ハ銀玉ニテモ
青玉ニテモヨシ盆ハ
玉ノ丼 天女持出ル
盆ト同ジ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

江野嶋

装束之覚

初シテ　面　笑尉（アサクラニテモ）　尉髪　襟　浅黄　小格子厚板（中格子ニテモ）
太シテ水衣　尉腰帯　釣竿　扇（菊付ナレハ大口ニ通リナレハ着流シ）

ツレ　放シ髪　尉斗目　寄水衣　紋付腰帯
釣竿　扇　尉斗目ノカハリニ厚板ニテモ

天女　面ツレ面　カツラ　同帯　着付箔
大口　舞衣　腰帯　黒垂
天冠　黒骨扇　玉盆ニノセル　舞衣ノカロリニ長絹ニテモ

子方二人　黒頭　着付箔　水衣　腰帯　扇　鉢巻
又
カツラ　同帯　着付箔　腰巻　扇（黒頭モノツヾク時ハ鬟ナリ）

後シテ　面（黒髭大飛出ニテモ）　赤頭　金入　赤地鉢巻　着付厚板唐織　襟花紋
半切赤地　狩衣鉢地　紋付腰帯　龍　龍立
神扇　手状

作リ物　大宮　一疊臺

後シテニ用ル龍立頭龍トテ龍ノ双立ツ有龍ヲ用ル由無之ハソヽ
常ノ春日龍神竹生嶋等ニ用ル龍ヲ用ルテモ不苦

天女舞附

天女扇前ニサシ初ヨリ作物ノ内ニ入テ出床机ニ腰カケ玉ヲ盆
ニノセ両手ニテ持居童子左右ニ下ニ居左右ニ居ケて引込シトル
●底出浜度ノ返シヨリ立臺ヨリ下ル●此後あヨリ正面ヘ出
●曇ノ如正ヘヒラキ●忍まさけんとワキヘ向ワキノソバヘ行下
ニ居左ノヒザタテ右ノヒザツキ玉ヲワタス心ニテワキノ前ニ両手ニテ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

ヲキ●森永を立扇モテ右へトリ袖ノツユトリナガラ大小ノ前ニ行羽袖を返シト正ニテキタツハイ永●永ノトメシテ柱ノキワニテ足リ下リ左右打込ヒラキ●天人雲底左右打込ヒラキ返シ身ヲ直シ●かくやと思ハ正ニ出●雲らくうてヒラキ●そゝて吹ゝて サシ足シ右へ足リ右ウケ歩ニシテ柱ノ方へ行出沢ノ松ト幕ノ方向雲ノ前ソヒラキ早笛ニナリ扇タヽミたへトリ笛坐ノ上へ行童子ノ前へ居ル●矢ヲとて放ハ立ニ足出カケシテ向ニ居立●そ時天狗ハト立直ニ入ル 天女玉ヲワキへワタスワキウケトレバ直ニウタス受取ラズバ下ニヲク申合セ次第

子方業附

二人共壷ノ上ニ天女ノ両ワキニたノヒザ立テ右ノヒザツキ下ニ居●底生欲度ノ返シヨリ天女ト一シヨニ立壷ヨリヲリ●生欲度ヨリ一シヨニ出カケ泥海亦共ヨリ二人共たへトリ笛坐ノ上へ行右へトリワキ正向下ニ居●そ時て放ハ童子を立天女ノたゝ右ニツキ入ル

ツリザヲ本ノ方糸クル処目分斜ニテイカ様ニ宜シキ振シテツレ共初ノ出右ノ本ノ方糸クリメル処右ノ手ニモチカタゲ出ル

神シテヅレ附

一声高砂ノ通釣竿カタゲシテノ先キニ立出一ノ松ニテ向合●沖津風トウタイ切業壷へ入ル中へ立正面●右うらいりいトシテへ向合●氏子のゝ字ヨリ入多度見坐ニテ揉後見へ変シコシノ前ヲヌキ持見分柱ノキハへ行キ正向立居ル●らいらいらトワキへ向キアトワキへ向ツゞケ●名乗をトシテへ向●則記のヨワキへ●謂をト正●万代の打切ニツレ坐へ行正向キ下ニ居ル中入ニ立シテノ跡ニツキテイ序ニテ入ル

又

●其の名小男雲のまつり たノ袖ヲへシザシワケ右へ廻リ吸ゝだるふそトノ松ニテラシヲンへたノ足フミカケたノ袖カへシ笛働吹キ出シ足フロシ舞台へ入直ニハタラキ充数拍子フミ直ニ角へ行アト同断

●天女持出ル玉形ハ玉ノ井ノ玉ト同様ニテ金ニテモ銀ニテモ宜シ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

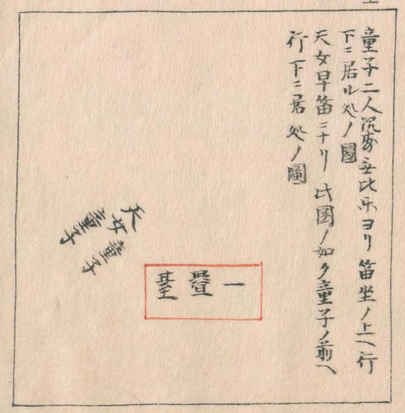
シテ舞附

●真ノ一声扇前ニサシツリサホ右ニカタケ出高砂ノ通リツレト向合ツメ足シテ鳴津鳥ト謡出ス●あさからけト謡キリ正●笈衣ツレト向合●沖津風謡キリツリザホヲロシ右ノ手ニサゲ舞臺ヘ入高砂ノ通リ歩切ヲキ、夫江の鳴ハト謡出ス●かうらいかいのツレト向合●此西の地のノヒゾキヨリ左ヲ少シフミヒラキハヅメツレト入カワリ中ヘ行正●さんぬ此浦のワキヘ●是ハ欽明天皇ニ正●胡ハ紅元ワキヘ●柳此鳴ハ正●海底よりワキヘ●かいくたる正●或ハ羽衣よワキヘ●あるひハ鉄杖を正●おのくに是をツレト向合●まなかつ江地ワキヘ●是をかなり二足ツメル●謂を出す正●あらめてもワキヘ●実を義や正●ゆとかふワキヘ●此時を二足ツメ●よろつ代の正●今朝末右ウケ●此鳴のちかいハ正ヘ直シ出●西そくしきヒラキ●若神ハ角ヘ行●さつけ悪神ハ角トリ左ヘ回リ●新め粉蒲なきシテ柱ノキハニテワキヘヒラキ中ヘ行ワキヘ向ナリニ下ニ居立●語さすの語ナクトワキ謡フトキ正向ツリサホ下ニラキ扇持トクト下ニ居ル水衣カタヲロス

水(サシ)ハ山乃陰をふくミ山ハ春の
こゝ海にまゝ陽たり壊中乃仙
清流より白雲乃やぬるゝ前にこ
うそんひらきくし翠屏あらハ
出とり岩窟の奥をあらに入く
滅くたる岩尾乃まさ海より落
ける水ハ西天乃無熱池の池を
なるこゝりや 祝(シテ)宮無漏の仙人
ハ此池を出免て栖とし泳沱
有縁の数主ハ沙鳴にきとつ
て生成道びく 三(シテ)世安楽乃
此志波ハ泥(ワキヘ)ゟ粉ミをかけさ新
風きウヤ(歩切立ケ)爰に又いにしへ武蔵相

摸の城に鎗奈海月の間に吸
うさまといふ水海あり彼の海に
大蛇まあり其身ひとりにして
其かしら五りあり澄準の鼻
胡鬚乃あぎと眼に白日をつ
れぬき刃（ワキヘ）に黒雲をまつり（お切正）
然れば神武天皇より密に天
皇の御宇迄ハ十一代の帝祚
を重七百余歳の祈んしを絶
て國中（ワキヘ）にうちて人をとる
景行（上ミテ正）天皇の御宇に至り龍
悪いよく行かんなれハ人皆石
窟に隠れすミ渡笑の鐸浪り

なし時に天部ハ龍に向ひ汝があ
くかをひるがへし教生代とめ
此國の守護人となるハ夫婦の
かたらひを我なほへし此堅く
誓約し給へハ龍王も是に恵
しつゝ今より教害をとゝめて
善心を思ひ龍の口の明神（ワキヘ）と
成給ひ国土を守護し給ふな
里（お切上ロニ正）早時うたる夕雲のく
かゝる神秘も大きな乃浦人いかて
いふしての神の告りや有難や
中（ミテ正）くなれや大忘のみことかし
こ見勅に今我恵する志賀（ワキヘ）しを何



程ハさむ秋まかり家に侍給へ
勅（正）不意ちまゝ出来しとハ可ゝ
人ハ誰やらん　誰（シテ）とハ海そをろ
り也我ハ五頭龍　今（正）ハ又天祖（ワキヘ）の
夫婦の神と成し龍（居立）の口の明神
とハ老人をうへしと宵（正ヘ直シ立シテ柱ノ方ヘクツキ）の月
ゝ天部乃所姿わり姿（左ヘトリワキヘ向ヒラキ）をそ顕ハ
無しと思ふ彼ゝ（正ヘ二重ヒラキ返シニ入ル）たらまきれつゝ
う物語ふ社あらたなれ〳〵　彼（ワキ）
伯ゝ絶軌をさきにあ事張儀ゝ
英聲を坂ゝハ是ゝ懸門勞進
弁ゝ天の　我（正）量無邊不可
思議乃功徳を極ゝ顕りしおも

しまハ　月（天女）も照ふふ心意此寶
珠の光りを誰ゝ物ゝ物ゝ　あ（上）
ふ事ゝ我〳〵心のおとし　ゝ
時ハ　今（天女）此君のそれと所影ゝあ
ひにあふ　示（上）和ゝ事をなになら
ハ彼ゝ意宝珠を君ゝ所ゝ
と光りそ　ゝ御殿乃戸ひら

正

天女童子ノ花ヒ操ノ圖

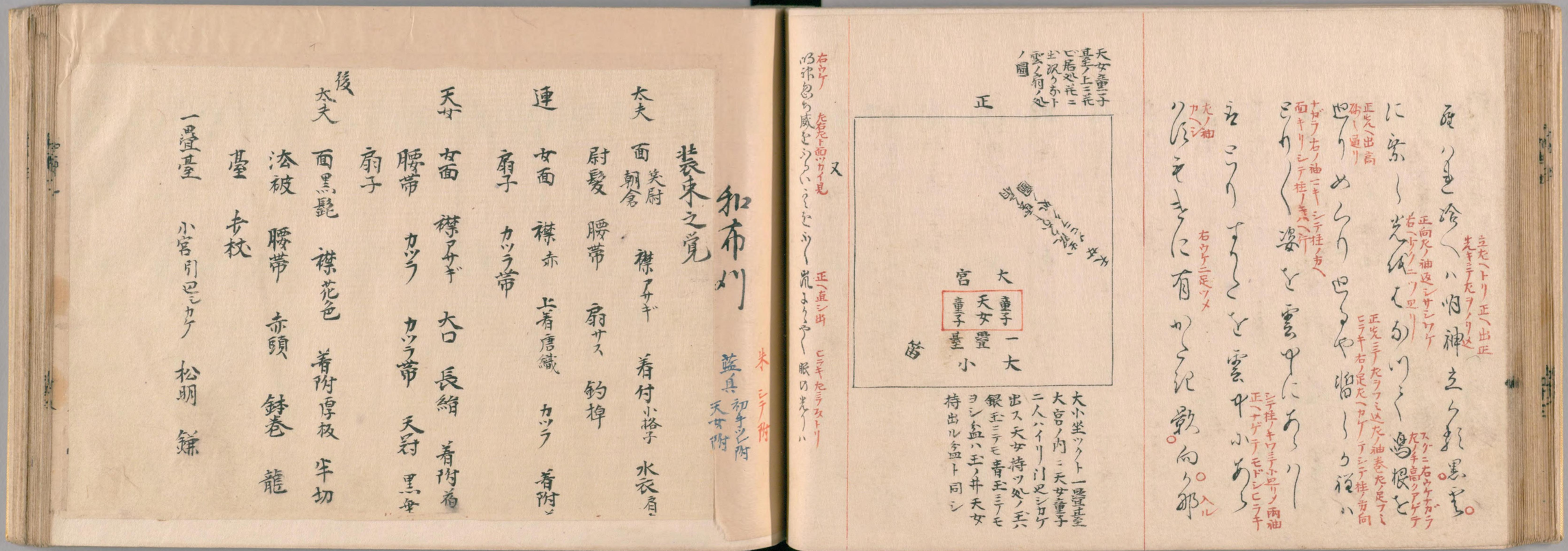
童子二人沢房無比示ヨリ笛坐ノ上ヘ行下ニ居ル処ノ圖
天女早笛ニナリ此圖ノ如ク童子ノ前ヘ行下ニ居処ノ圖

天女童子

一畳臺

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



天女童子
臺ノ上ニ花
ビ居処花ニ
出沢ノ方ト
雲ノ有ノ処
ノ圖

正

大宮
童子
天女
童子
一畳臺
大小
笛

大小坐ツクト一畳臺
大宮ノ内ニ天女童子
二人ハイリ引廻シカケ
出ス天女持ツ処ノ玉ハ
銀玉ニテモ青玉ニテモ
ヨシ盆ハ玉ノ井天女
持出ル盆ト同シ

又

右ウケ
左右ト面ツカイ見
明神忽ち威をふるいうをふし
正ヘ直シ出
ヒラキ左ニテストリ
嵐よりやく
眠の光ノハ

立左ヘトリ正ヘ出正
先キニテ左ヲノリ込
正向左ノ袖返シサシワケ
右ヘトリ二ツ廻リ
スグニ右ウケナガラ
左ノ手高クアゲテ
正先ヘ出高
砂ヘ通リ
正先ニテ左ヲフミ込左ノ袖巻左ノ足フミ
ヒラキ右ノ足左ヘカケテシテ柱ノ方向
ナガラ右ノ袖ニキシテ柱ノ方ヘ
面キリシテ柱ノ美ヘ行
シテ柱ノキワニテ小廻リ両袖
正ヘナゲテモドシヒラキ
左ノ袖
カヘシ
右ウケ二足ツメ
入ル

和布刈

装束之覚

太夫 面 笑尉 朝倉 襟アサギ 着付小格子 水衣肩
尉髪 腰帯 扇サス 釣棹
連 女面 襟赤 上着唐織 カツラ 着附
扇子 カツラ帯
天女 女面 襟アサギ 大口 長絹 着附箱
腰帯 カツラ カツラ帯 天冠 黒無
扇子
後 太夫 面黒髭 襟花色 着附厚板 半切
法被 腰帯 赤頭 鉢巻 龍
臺 歩杖
一畳臺 小宮引廻シカケ 松明 鎌

朱 シテ附
藍具 初手ツ附
天女附

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

正

小宮引廻シ宮初ヨリ仕辺近クロサズ
シテノ業ニカヽウラズ出ヲク斗也
大小出ルト作物出ス

一畳臺
其上小宮
引廻シ結
掛ケ

| 一畳臺 |

古　大　小　四

大小坐付ト一畳臺小宮作物出ス
釣竿右ニカタゲ扇前ニ一声ニテ出ルツメ足メ謡出ス
ツレト向合謡フ
扇モナシシテノ先ニ立出ル
一ノ松ニテトメシテト向合

又ニテ…ト謡切リ棹ヲ已ニ舟ヲ渡シ見テ左ノ手ヲ棹ノ手ヘ
ツレ右ニテ棹ノ中ホド持チテ…舞臺ヘ入

く　天地のひらけし御
代も久方の神と君とのめぐみ新に
言葉 正 正
守りまもる恵も直なる道の昔を
まつ年ふれや　有難
やされ秋は月に浦は垣に
神前の御みそぎ桜をあふぎ

シテト向合
ツレト向合
臺ニ入リ柱ヘ行正
ナレヤト謡切リ舞
又
シテ柱ノキワニテ中見合キヽ
三ノ足下リヲキテ謡出ス
シテト向合
ツレト向合

あやうき神の御末。世々をひかり
たつるまで　あまくだりくる程の
の負いてん盛世の道めぐる
梅花を手折しをかさしれて手向
葉魔よ来る神心桜ひらけりて
ゆめよしのあきそとてひとこの
神のいさ結縁をおもひかのよ所に
まさやまとの国くば来海
も梶をとりて釣指輪あ海
乃声きみのゆかりかしかさへ
シテト入カワリ目付柱ノキワヘ行正
ツレト入カワリ中ヘ行正
や四方それは花の手向子
神のく　さやおくの御
まらの神の三まへよりを向を拝

人親ハうもやいかなる人なるらん
是ハ殘しきあまし女の数ハ
あらぬう紀身なるが手向と指
計なり　我ハ又年ゆきく行る
社浦の漁舟の罷とおそまく故
賤しき者ハうろき身とぞ如ん
為みくいや　中なれやうろ
まくも拯ひよもれぬ社浦の
あ海のいさり火こうるまも和光の
かけハくりなく　あきらかなれ
や天地乃ひらきし　神代のて
とくみくに直なる人き人心ぞや
ましの瑞現あらはれまたりて有

籾きゆ海原やたかき乃海を
経近くゆく　おほひく鴻もを
見えたれもやたもれ友子鳥沖
乃鴎をむまさ立や　素杖の雲
井の鴈もそめえぬ　たか玉章
乃ぞしの開守しよろしんや
理りや　先地神第四
乃御代ほとてこれ萬世玉姫
と聖りをあしい海陸乃見て
なかりしに　それ御着のと紀
世玉姫　そまよ向ひ宣く着故
よおぬくわり安紙あへくるを
まつまなれど御儀乃見

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

嵐山

装束之覚

初シテ　面小牛尉　尉髪　着付小格子厚板　大口　シケ水衣
　　紙子腰帯　扇　杉帯　状ニテモ

初ツレ　面姥　鬘姥髪　鬘帯　着付無色箔　水衣
　　上着無色縫箔　杉帯

後シテ　面大飛出　赤地金入錺巻　赤頭　着付厚板唐織
　　半切　狩衣　紋付腰帯　神扇　唐冠

木守　面邯鄲男　赤地金入錺巻　黒垂　黒風折　白大口
　　着付厚板　草狩衣長指ニテモ　紋付腰帯　白骨扇　桜作花

勝手　面増　鬘　鬘帯　黒垂　天冠　着付箔　白大口
　　縫紋腰帯　長指　黒骨扇　桜作花

桜ノ作物

シテ舞附

・扇前ニサシ帯右ニサゲテ持ツレヲ先ニタテ真ノ一声ニテ出橋掛ニテツレト向合ツメ足ノ花守のもしもやト謡フ・梢ノ謡キリ正・たねあれやツレト向合ニ来ニてゝ謡キリフタイヘ入上畧ノ手切ニ三足下リ足トメ正ニハ嵐の山のト謡フ・それなら方十里ツレト向合・花の盛タキノキノ字ヨリ左ノ足フミニフキ左ヘハヅメツレト入カワリ中ヘ行足トメ正・さんいにハワキヘ・渇仰中ニハワキヘ二足ツメルツメズ正ヨシ・それならし山の正・実ハ心霧ハワキヘ・人ノそれさらね正・こゝにはあるよワキヘあるねを二足ツメル・実やさし

乃海底のめとりの秋前之後
かえりのまへを猶なく海を志ほ
ちしほたれのあら海
と成えぬ白妙の玉をしき和国
乃風天をひびき雲は浪の
波風海をおさまれば波風
海をおさまれば蛇神は竜宮
よとんてそ入ける

もこそ正・ヲ好杖杉もワキ、・実たのもゝソレト向合・おゝしろきそワキ〈山ゐりとも二足ツメル・花いろも正・ま師の緋ハワキ〈・人ふるさゝせ二足ツメル・おゝやの岩屋の正・実桐の花窓右ウケ・ふく風る浪の正〈出シ出・花の山ころころとワキ・ゐつこの川の角〈行・まいめの白の角トリ左ニリ・流まいの大井川シテ柱ノキハシテ正〈トワキ・いさゝ〳〵包をツレ〈向合返シニ足ツメル・妻の風いの正・唐船の出・志賀のとワキ・千年の山猟右ノ方〈足トヒニ右左中ト面ツヒ見・老つぶさゐ〳〵しの左ノ足ヨリ二三足出作り物〈向・吹木枝の作り物〈向キ下タ〈トリ千タヨリ上ノ方〈作物見上ケ・ゆもまで正〈向キテモ又西ノ方見テモ・よめまをまこせワキ〈・ゆるもワキ出ノ方〈行・山猟ニノるワキ出ノ前シテ左ノ足右〈アケテ右〈トリシテ柱ノ方向出ニ右ノ足フミヒラキ右ウケヲウケ右ヲノリ返シ書ふ折右左ト柏手フミ左ノ足ヒヲリ右ノ足フミヒラキ常ステタ陽ヨリ気ヲノバメシテ柱ノ方〈行・主のもこふシテ柱ノキハシテ左〈トリ正〈ヒラキ返シニ入

早笛良橋掛リ下松シテヒラキ

走 柏子 我孝行の利物の少〳〵 シテ ワタイ肉入リ

都へ出〳〵今度国許乃鹿ふまゝ〳〵

角行角左トリ 金脇面部の一巻といつさゝけ シテ 雲業

角左トリシテヨヨミテ左ノキトシヨ左ノ足ヒヲリ左〈ニワリ

角左トリ出左〈ニワリ

正先ニシテ左〈ノリメ

立正先〈

後〈ヒラキ下ニ居正

立正先〈

西袖左右〈ハラヒ

シテ柱ノキニテ

西袖ニハラヒ

左ノ袖カヘシ

角メニ入

小ヒロ

シテ柱ノキニテ

西袖ニハラヒ

左ノ袖カヘシ

角メニ入

小ヒロ

中ニテ正先キ〈出西足川西袖頭ニカケ

西袖左右〈ハラヒ

右ウケ右ノ方〈出

ツノ柏子

大小ノ前ニテヒラキ

体ヲノバシ

右ウケカラ正先〈出 正先ニシテ左〈ノリメ

一面ニテハヤフシ

一面ニテハヤフシ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

初シテ委附

左向右足ヲミヒラキ右ヘヨシ
ヲノセテ右ノ方ヲ見込
橋ノ左ノ方ヲ見込シ

左ノ足ソルフナシニ中見ナ
ヲラ左ノ足ヨリ三足出ヲ
ヲラ作物（向

・千なの山さくら

ワキ座ノ前ニテ左足右カ
ケテ右ヘトリシテ柱ノ方向ス
クニ左ヒネリ右ノ足ヲミニラ
キ右ウケナヲラヒテ右ヲ

ノリ込右ト拍子ヲ拍子ニカリ文
タヲアセテヘアシラリ正面ニル心
ニテデスルトアシラリ左ヘシカケトヲミ
左ノ足ヒテリ右足ヲミニラキ帯ステ

正面ニ少タル心ニテ左ヨリツヽ出シ（ダンデヲ
ヨヲルケトヲカヒ正面ニノウタ心ニテヒラ
中ニモソラウシテヲケテユク

シテ柱ノキハニテ正面
ヘ出テ

るくもおのくそめ陽ゆく雲山ものこふ紅葉

後シテ委附

早笛ニ段ツヽヲヲサシヲスヲアヲメノ左ノ勝リ分
ヒト（ミニナリヲメテハシリ出テ松ニテヒラキ
七ツ拍子

シテ柱ノキハニテ正面
ヘリツケト正出テ

・ね老利おの山ふもと

角向ヲラ右
ヨシリヒト（ミニナ
リ右左トニ足リ

角ヨメタナリニ中左ニテキリ右ノヨシリ分テ
ヲケ左フミ
ヨシリヒト（ミニナ
リ右左トニ足リ

角横ニキナカラモキ物ラリルニヲクヨシヨ
タテノヘルフモキニテ出ル共角ノミニ中ニキリナカ
ヲ足ハ立左ノ手ハラリ止テモヨシ是ハテキニクリ

正先ヘツケト出テ右ノ
足ヲ三足右

・梅又

あ数の一ふしを

ノコシラスノヲ
ノ通ニテ角ヲ
ケヲアヲメ

左右ト二足ノ
大リ両袖頭
カラヒラ見

雪頭ニテヲ

ふくふ吹ふとをけ梅ハ

右ウケカラ右ノ手ヲシニラキ
左ヲケ右ノ方向キリ右ノ角出

・梅ハ

・宮廃跡の・学ぶを

正ノリ込後ヘトヒカヘリ花ヲト左左トニツノウシロノウシヘ
左ヒヲヲキ左ニ左ヲツ出シヒヲケテ（右ヲキ動出シ左ノヒサ
サツキ右ノヒサツキ左ニ出テ（右ヲキ動出シ左ノヒサ
ヲテ右ノヒサツキ左ニ出シヲカラ左ノ袖カヘシ動出シ左ノヒサ
又左フミ出シヲカラ左ノ袖カヘシ動出シ左ノヒサ

サンワケロサンワケ左ノ袖送シ
左ノ手ヲ向ヘハネ

・さかりふるも

左ノ足フミヒラキ左右ノ足カケヲラ右
袖ヲ込体ヲ前ヲ向ヲラヒト（身ニテリ
シテ柱（魚ハカリ向ケテヲラ体ヲシメ
テシテトシテ柱（魚ハカリ向テシテ柱ニ行

ふるの花のあとも

替業

大小ノ前ニテヒラキ正向ヲラル

ツレ二人出シテノ西方

・ちらいをけ〳〵はら〳〵

（ヌリ立テラフ

日拍子フミニテ

あるりつゝ花を静観

ツレ二人正先（出作物（袖カヘシ左ニ入
ヲシテ二人ヲ正先（出作物（袖カヘシ左ニ入

・花を静観・四季の

ヲシテおの〳〵嵐の山よりちのり花をたるれ梢

左ケ左ノヲヒケ正先ニ出
袖ヒラ是ヨリ常ノ通リ

よをつゝさかるらふるものなの

又 此業通例一通リ業ナリ

大小ノ前ニテヒラキ正向ヲラル

・ちらいをけ〳〵はら〳〵

（ヌリ立テラフ

あるりつゝ花を静観

ツレ二人出シテノ西方

日拍子フミニテ

・四季の景色

ツレ二人ヘトシテ正（ヨシ出右フミ
ヒラキ向キニテツヒヲ見送リ

の姿をうつせておの〳〵嵐の山よりちのり花をたる

左ケ左ノヲヒケ
ケ正先ニ出袖ニテ是ヨリ常ノ通リ

れ梢よりけつゝさかるらふるも

又

・けつ〳〵あるりつゝ花を静観

出ル二拍子フミテヒヨシ

・四季の景色

ヒラキ
ツ立ラル

又 織部 段ノ業

シテトツレ共ヘト立ヲケ

・四季景色の姿をうつせて

三人ニヨリ正先（出
おの〳〵けつ〳〵しの山よりちの

（ヌヲケヘトヒリ出ニ左ノヨシリ分テツケ
スラウン見送ルハ作物（袖ヒ左ニ入ル

常ノ通リ正先（出袖ニテ右ニ同断

り花をたるれ梢よりけつゝさかるらふるも雪の花の

初ノツレノ舞附

・帯右ニカクケシテノ先ニ立真ノ一声ニテ出ノ松ニテ足トメシテ向ツ
メヒメ花ぜのト謡フ・指ヲ謡キリ正・花ありやシテ向・案

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

そろふ踏きりアタイへ入中へ行足トメ正・それを方シテへ向・
花の段シテト入ワリ後見坐ニテ常後見ハワタシ目付柱ノ方
へ出足トメ正・実たのもしやシテへ向・名祐ありしのち
・花ももち〳〵左へトリ笛坐ノ上へ行目付柱ノ方向下ニ居・
さく〳〵花をシテへ向・裏の風ハ目付柱ノ方へ出ス中入ニシテク
トニツキ入ル

後ツレ舞附

カケリ先ニ立本寺アトニツキワリハニノ七カケリハ
一ノ松木寺ハ中ニ行カリ左右ヘ辺ヒラキトメ

・三世方歸りの〳〵そなの花の程うく 嵐山ゆく
三足出テカラ左右

たゝる神垣ひそ目もなき神垣のうちをめぐりてそ
打込ヒラキ

ゑらく〳〵の日〳〵花ちりてまたもとゝれきく〳〵春の有るうつる
逆ショリクタビ入カケリハ地ノ方本寺ハシテ柱先ニアトトメル

三人氏正ニヒラキ
のめづらまでも松のをニ人 春秋の嶺をよ〳〵 雲
向合 正ニ出シ

正ニ出
山もなくうぐひす谷の氷とけ井川の岩
正ニ行カリサシ 巳ニヒラキ カラウ

テ右ノチヲシヒラキ左ノキ
カケテ三足ツメル
桜より濃く〳〵春山もみぢより百代と〳〵
正ノリ込ヒラキ カラ花ノ

ニツホトフリ花ヲステ
やせ〳〵神の 扇ヲヌキ正向ヒラキ
神のうぐひすちるやうつる三段ノ舞 三段ノアトツレ舞ニテ二段メ三
段メノ途霍亀小神嘗祇同断

大左右打込ヒラキ
神楽の鼓をきゝて〳〵 逆ショリ静ニ出ル二行左ノヨシ入左ノ手右カタヘアケ扇
神楽の鼓の秋をきゝて〳〵

神アシラヘカケリ左ワロリナカラ神モトシ
〳〵ありうつる 舞楽の秘曲も夜もすがら 正ヒラキ 感應ありふ

サシ大左右ワロリ笛ノ方ウケスグニシテカケリ向
先ぐるありうつる あらたふや 面のうしろ

此の景色 雪花にて 掃きたるひさご 雪の光うつる
立

雪の 雪を 雪〳〵とて〳〵しき 花をきる影 松ぞひ
カケリハシテラ後ロヲ通リ

シテノ右ノ方へ立ナガヒ本寺ハカケリノアトヨリ出シテノ左ニ立ナガ
カケリ先ニ立本寺アトニツキシテノ前ヲ
通リハシヨリ行道ニノ入

ハ〳〵ありうつる 春を経現国仏 春の
二人氏一ニヨニ立

二人氏ニヨニ正先ニ出
てお〳〵 ハ〳〵しの山よりもの〳〵 花よりなを
神モトシテラ右トリシテ柱ノ方向二人氏ハ方ノ行出ニ入

梢よりもの〳〵さふらふ 雪も雪のやどの
又

ひそ ひそを ハ〳〵 ありうつる 春を経現国仏 春の
二人氏一ニヨニ立

ひそを ハ〳〵 ありうつる 春を経現国仏 春の
二人氏一ニヨニ立

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

シテ正先ヘ入リ込トアトヲ通リ二人正ヘ入ル

の雪をわけてあの〳〵嵐の山よりも〳〵花ぞ〳〵

初シテ扶ニテ舞ノ舞附

●扇前ニサシ扶右ニツキツレヲ先ニ立真ノ一ノ手アニテ出橋掛リニテツレト向合ツメ足左ノ足フミ出シ扶一ツツキ右ノ足ツメ花ざのトウタフ是ヨリ名ノリテ嵐の山ありともニテ常ニテ舞ノ業ト同断

正
花よりも散〳〵風もうつろはで　早
あの時の我そのまゝの姿にて
三足ツメル左ノ足ヨリ左ノ手出ス一通リハ左右ト二足ツメル左ノ手出ス
我そう〳〵きたり嵐山　〳〵

右ウケ
さてもの字の雪風を〳〵　実ぬのを置ウケ

正ヘ出
前ヘ扶ツキ正見左左ノ足フミ出シ扶ツキ右ノ足ツメル
雲くる法の声たえて〳〵　角ヘ行
かへ嵐の山さくら葉の橋

角トリ左巡リ
の川のあさくも春の日のもめる芝も濁のまゝ

シテ柱ノキハニテ正
るとても流れは水の川　〳〵

ツレ
そもく

三足ツメル
右ウケ右正見足正ヘ出シテ右ウケスルヨシ
花をさそふよ〳〵嵐の風を　正直ニ正
雲の風をや帰る帰る〳〵　〳〵

角ヘ行
春来のあとをきうとも称して吹こさいあ志の雪もまれ

正先ニテ左ノ足トメ左ノ足フミ出シ扶ツキ右ノ足ツメル正ニアト見

右右左中ト足トヒ向ツレト見
ぬる〳〵　千年の山ざくら嵐の山風を

作リ物ノ向左右ト三足下リツメルヲ作リ物ノ向ニアテ作リ物見
吹るも扶ぬ〳〵　〳〵

正南向キヲリテモヨシ又南ノ方伴アツシムルカホニテ南カニテト見テモヨシ西ノ向ヘトリムク
嵐ぞ乃

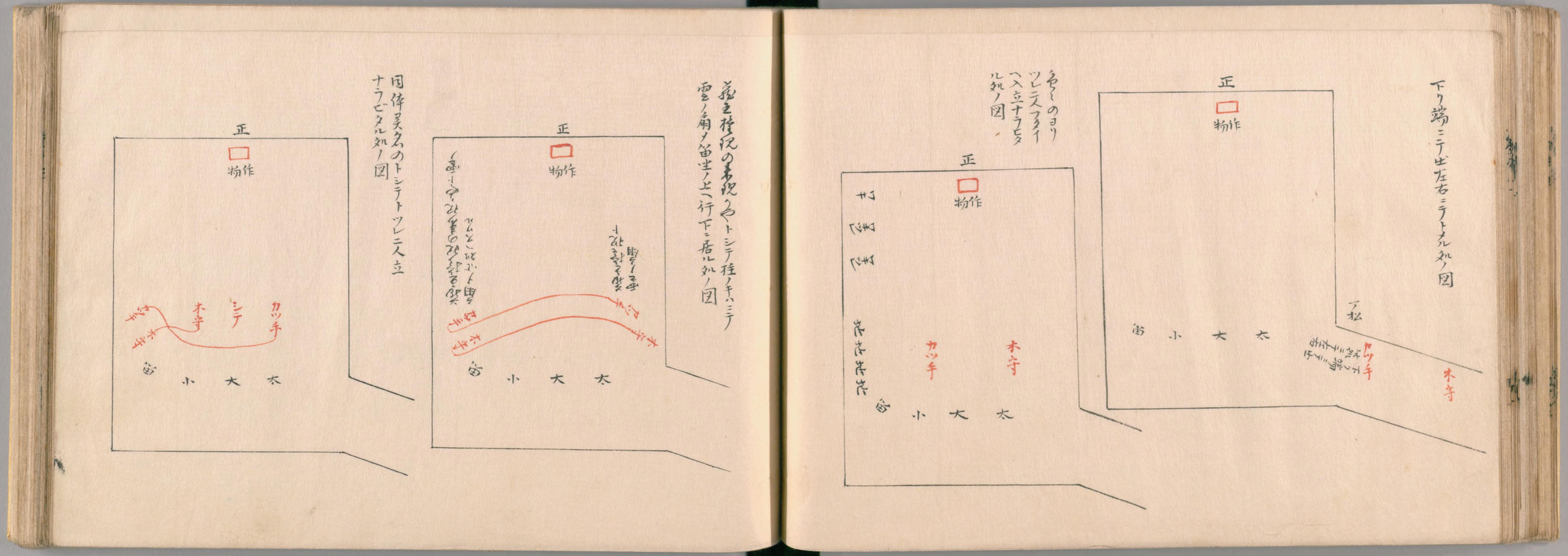
内ヘトリワキノ向
よのまをまちせのよる〳〵　早正ヘ行
嵐もこよひの山

早正ヘ行ニテ右ヘトリ左ノ足右ヘカケシテ柱ノ方向ナカラ右フミヒラキ右ウケテ左ノ足ヲシフミ出シ右ヲクリ込ナカラ扶前ニツクキ右左ト拍子フミ右ノ足フミヒラキ扶ヲシ
さくらこそちるよ〳〵　シテ柱ノキハニテ正ニラキ入
右ヘヨセテツキ扶ステシテ程ヲ行心持常ノツケト同断
春の夕ふりくる雪の

又

正先ニテ足トメ正ニアト見　直ニ作物ヘ向ニ三足下リ扶ムケヘアラ作物ヲ見
ちる花一〳〵　千年の山嵐の山ぞせる

扶ムケヘアテナカラ左右中ト向ツケト見
吹とも扶ぬ〳〵　正ニ出アト同断
雪もはらはぬ袖の



国体異名のトシテトツレニ人立ナラビタル処ノ図

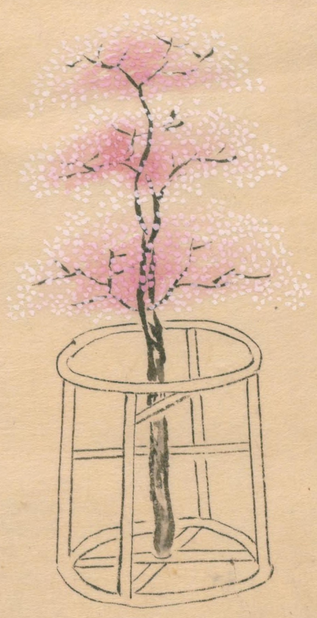
義主権現の表現のやトシテ柱ノキハニテ雲ノ扇ノ笛坐ノ上ヘ行下ニ居ル処ノ図

やくのヨリツレニ人フタイヘ入立ナラビタル処ノ図

下り端ニテ出左右ニテトメル処ノ図

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

桜作物　長サ一尺五寸　四方正面
但常花



桜持枝　二季
長サ二尺五寸
但常花

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

山風

装束之覚

初シテ　面小牛尉　尉髪　着付小格子厚板　大口
シテ水衣　紗子腰帯　扇　杉帛　扶シテモ
前ツレ　面姥　鬘姥髪　鬘帯　着付色色絽
上着色色縫箔　水衣　杉帛
後シテ　面大飛出　赤地金入鉢巻　赤頸　着付厚板唐織
半切　狩衣　紋付腰帯　神扇　唐冠
面前鬼男　赤地金入鉢巻　黒垂　黒尻折　着付厚板
白大口　掌狩衣　長袴シテモ　紋付腰帯　白骨扇　桜作花
勝手　面増　鬘　鬘帯　黒垂　天冠　着付袴
白大口　縫紋腰帯　長袴　黒骨扇　桜作花
桜ノ作物

初シテ委附

右向ノ足ヲシメテヒラキ右ヘヨシヲーセ千ヤト右ノ方ヲ見山ざくらと左ノ方ヲ見廻シ
左ノ足ヲメテ少シ中見ヤヲ左ヨリ三足出ル
ワキ座ノ前ニテ左足右足カケテ右ヘトリシテ柱ノ方向スクニ左ヒヨリ右ノ足ヲシテヒラキ右ヘヨヨヒテ右ヲクルト左ト拍子ヲシテ右ヲクルト拍子ヲシテヒヨリ走ル
千本の山さくら木葉きつゝしの・山さくらと立くるも
雲ニツメル心ニテ左ヨリフミ出シテタシメテヨルヨヒテツメル心ニテ左ヨリフミ出シテタシメテ
ヨルヨヒテ左ヘシテカケトヲシテ右ハカヘテ左ヘシテカケトヲシテ左ヘヒラキ
ヨリ右足ヲフミヒラキ常ノ人ノ行
中ヘヒテタシテヒラキ常ノ人ノ行
小木のもとの夕陽ぬる西山や南のさくら折ふり
シテ柱ノ方ヘ行ヒラキ正ヘヒラク

後シテ委附

早笛二段ハヤヒラキサシ出スヤヲヒノ左ノ膝ヲ付ヒトヒニナリヨヒテハシリ出テ松ニテヒラキ
セツ柏子
シテ柱ノキハニテ正ヘ向
きりつかくと正ヘ歩ム
正ヘヒラキ
・来ぬ利休のかなめ・多度田宿の鳥よ・建水石船の
角ヘ行ヒラキ両手ヲ合セ左ヲヒラキ角左ヘトリ
角ヘ向ヒラキ右膝引ヒヘ
角ヨリ右左ト足引
角ヘ行ヒラキ右膝引テ
正先ヘハカヘト出テ右足ヲ
ヒラキ両手ヲ合スヤヲヒノ通
一足を引うき升・松すこしの空

左右ト二足アトヘ大ニ引両袖頭ニカフリ
両手頭ニ上ケナカラ上ヲ見
右ウケナカラ右ノ手少シヒラキ上ケ右ノ方ヘ向キ右ノ方ヘ出
サシワケ日サシワケ左リノ袖返シ左ノ手向ヘハ手ノケルヤフニ左ヘノケ

小郷ノ手をつかまてハ・恋慶降伏の・光明を放つく

元ノ上ト右ニテサシナカラ袖ハカヘサス右ヘ出リ
正ヘノリ返後ヘトヒ入リ花ノ上ト右左ト二ツクワシクワシヤフ正向下ニ居立左ノヒサタテ右ノヒサツキ出ニ正ヘ右フニ出シヒサタテ右ノ手前ヘ出シ左ノヒサツキ右ノヒサタテ又左フニ出シナカラ左ノ袖カヘシ前ヘ出シ左ノヒサタテ
立左ノ足ニ左ノ手ヒラキ風ヲフク

国土を・たかにたるゝ山をへにかけつく・さかしらなるも重の罪の

ニセルヤフニノ正先ヘツカヽト出テ左ノ袖顔通リヘマキ左ノ腰ヲ入テ左ノ足ニテトノ
左ノ足フミヒラキ左ヘ右ノ足カケナカラ右ノ袖ニ手ヲ出シ体ヲ留ヘ向ナカラヒト人身ニナリシテ柱ヘ点ハカリ向ケナカラ体ヲシツメテシリヽトシテ柱ヘ点ハカリ向ケシテ柱ヘ行

ゝらなるも重の罪の光を

替業

大ツノ前ニテヒラキ正向立ヲル
ツレ天ヒ立シテノ両方ヘ来リ立ナラブ
日拍子フニズ

⊕・ちかいをつらいし来るうつる菊王持現 同体美名の姿をこせて おのく罪のあるよちのかり花をたいふれ楷ようを

ツレ天ヒ正先ヘ出作リ物ヘ袖ヲシ出ニ入ル
左ツケ左ノ手ヒロケ正先ヘ出袖ニク是ヨリ常ノ通リ

つくさかしらなるも重の罪の

又 此業通例一通リノ業ナリ

大ツノ前ニテヒラキ正向立ヲル
ツレ天ヒ立シテノ両方ヘ来リ立ナラブ
日拍子フニズ

⊕・ちかいをつらいし来るうつる菊王持現 同体美名の姿をこせて おのく罪のあるよちのかり花をたいふれ楷ようけつく

ツレ二人ヒ入ルトシテ正ヘ少シ出右フニヒラキ
左ツケ左ノ手ヒロケ正先ヘ出袖ニク是ヨリ常ノ通リ

さかしらなるも

又

此ハ拍子フニテモヨシ
気ヲノバシ只立ヲル

・つらいし来るうつく菊王持現

又 織部 致シ以業

シテトツレ二人ト立ナラブ
三人ハシヨニ正先ヘ出

◐・同体美名の姿をこせて おのく罪のあるよちのかり花をたいふれ楷ようけつく さかしらなるも重の罪の

アトヘスラクト下リ直ニ左ノコシヲ付テツレ入ヲ少シ見送ルツレハ化物ヘ袖ヲシ直ニ入ル
常ノ通リ正先ヘ出袖ニクアト同断

後ツレ舞附

カツチ先ニ立本守アトニツキサカリハニテ出
カツチハ一ノ松木守ハ中ニテ行カヽリ左右ヘ出ヒラキトメ

・三芳野の〳〵手本の花の稚うへく 嵐山つらく

二足出ナカラ左右

なる神遊びを目出度世神つらひそめてたき二人色

折返ヒラキ

多の日〳〵花にそまれ志くら雪の来るうつく乃

返シヨリフタイヘ入カツチハ地ノ方木守ハシテ柱ノ先ニテトメル
二人トモ正ヘヒラキ
向合

めくるかまや松の色ニ青柳の嵐多ふ〳〵小倉山

正ヘ直シ
三足出トメ

もみへ雪むかひを増鏡の糸下ハ大井川乃岩根よ

正ヘ出
正ヘ行カリサシ
四シヒラキ
右ヲウケ右ノ手少シヒラキ

波しられ 嵐山もみへらう方代とし

左ノ手サケテ
三足ツメル
正ヘノリ返ヒラキ
クツロキナカラ花ヲ二ツホトフリ花ヲステ

やせ神つらひもちや ふる三段ノ舞

扇ヲメキ正向ヒラキ
タツハイ
三段ノマイツレマイニテ二段メ三段メノ入遠雪亀小袖曽我同断

大左右ヘ折返ヒラキ

神楽の鞍をまこて〳〵 ハ雅楽の秘を知るへ

返シヨリ静ニ出角ヘ行左ノコシ入左ノ手右ノカタヘアケ
正ヘヒラキ

ケ正向袖カシラヘカブリ左ヘ出リナカラ袖モドシ

しるうつ 舞楽の秘曲も度重りて感應あり

サシ大ク右ヘ出リフエノ方ヲウケスグニハシカヽリ向行

ふるいもるおりうら不思議や雨のうるより明

くる風の花の香薫して瑞光たなひき空の光り
かゝやきくるは蔵王権現の来現かや
（シテ柱ノキハニテ二人ヒ雲ノ扇ノ早笛ヲキイテ左ヘトリ扇ヌミニナカラ笛座ノ上ヘ行右ヘトリ目付柱ノ方向ヘシヨミ下ニヲル）

◑ ⊞
光明を放つ（立）虚空をてらし衆生をまもらひ
（カツ手ハシテノ後ロヲ通リシテノ）
（右ノ方ヘ立ナラビ木守ハカツ手ノアトヨリ直ニシテノ左ニ立ナラブ）
をあらはし木守勝手蔵王権現同体異名の姿
を見せて（二人ヒ一シヨニ正先ヘ出）おのゝ嵐の山ふよちのかり花よたゝふ
（二人ヒ作物ヘ袖カヘシ カツ手ハ右ノ袖ヲカヘシ 木守ハ左ノ袖ヲカヘス）
れ（袖モトシナカラ右ヘトリシテ柱ノ方ムキ二人ヒニハシカヽリヘ行立ニ入ル）梢ふかけつくさかりも雲の霞の

又

⊖
誓ひを現はし（二人ヒ一シヨニ立）木守勝手蔵王権現同体異名の姿を
見せて（カツ手先ニ立木守アトヨリツキシテノ前ヲ通リハシカヽリヘ行直ニ入ル）おのゝ嵐の山ふよちのかり

又

☒
誓ひを現はし（二人ヒ一シヨニ立）木守勝手蔵王権現同体異名の姿を
見せて（シテ正先ヘノリ込トアトヨリ通リ二人ヒ入ル）おのゝ嵐の山ふよちのかり花よたゝふれ

初シテ杖ニテ舞ヲ舞附

●扇前ニサシ杖右ニツキツレヲ先ニ立真ノ一声ニテ出橋カヽリ
ニテツレト向合ツメ足左ノ足ヲ一出シ杖一ツツキ右ノ足ツメ花
のトウメヲ是ヨリ名ふこて嵐の山かうとも一ニテ帰ニテ
舞ノ業ト同断

（正）花をも惜し風にもうつくころをとりて（ワキヘ）春暮の
（三足出ナカラ左ノ手ニテワキヲサス右ノ足ツメクルバヨリ左ノ手出ス一足通リハ左右ト二足ツメル左ノ手出スハカハワサナリ）
神はなれうし壱たらや嵐の山くるおとしやせめし
（サ切ニ正）
そ　若木やうの庭の雲風ハし（右ウケ）実ねの花
（正ヘ出）
雲り消くる流の音たてゝ峰ハ嵐の山
（前ヘ杖ツキ正見右ノ左ノ足ヲ三出シ杖ツキ右ノ足ツメル）
（角ヘ行）
さくら葉橋の川のあさきよく古めの月の
（角トリ左廻リ）
春めり世ふ五濁の水すみても流れハ大悲
（シテ柱ノキハニテ正）
川をみよハよもあらしいさしもとせきよ
（ツレヘ）
（二足ツメル）
く　春の風さこふ満て（右ウケ右ノ足見只正ヘ直シヨリ右ウチスヒヨシ）く　庭乗
（正ヘ直シ出）
の本とするとも神風まて吹くさいハあかる
の雲もきれぬ風し（正先ニテ足トメ左ノ足フミ出シ杖ツキ右ノ足ツメ正シカト見）千本のおさくら長
（左ヘ右左中ト足トヒニ面ツカヒ見）

つまき嵐の山風を吹とも枝はなしさし 此日

作り物へ向左右ト二足下リツヽムヲヘアテ作り物見

正面向キヲリテモヨシ又

西ノ方ヘ体ヲ少シムケカホニテ西ノ方ヘ向ト見テモヨシ西向トキ内ヘトリ

もこに呉行のよのまとを得せ給ふ事 明日

内ヘトリワキヘ向

ワキ坐ヘ行

もこよしの山嶺立くる雲ふ所ふくゝ

ワキ坐ニテ右ヘトリ左ノ足右ヘカケシテ柱ノ方向ナカラ右ヘフミヒラキ右ウケ左ノ足少シフミ出シ右ヲノリ辺ナカラ杖

前ヘ一ツツキ右左ト拍子フミ右ノ足フミヒラキ杖少シ右ヘヨセツキ杖ステシテ柱ノ方ヘ行心持帰ノワサト同断

シテ柱ノキハニテ正ヘヒラキ入

陽ゆる西山や西の方にゆきにけるし

又

正先ニテ足トメ正シカト見

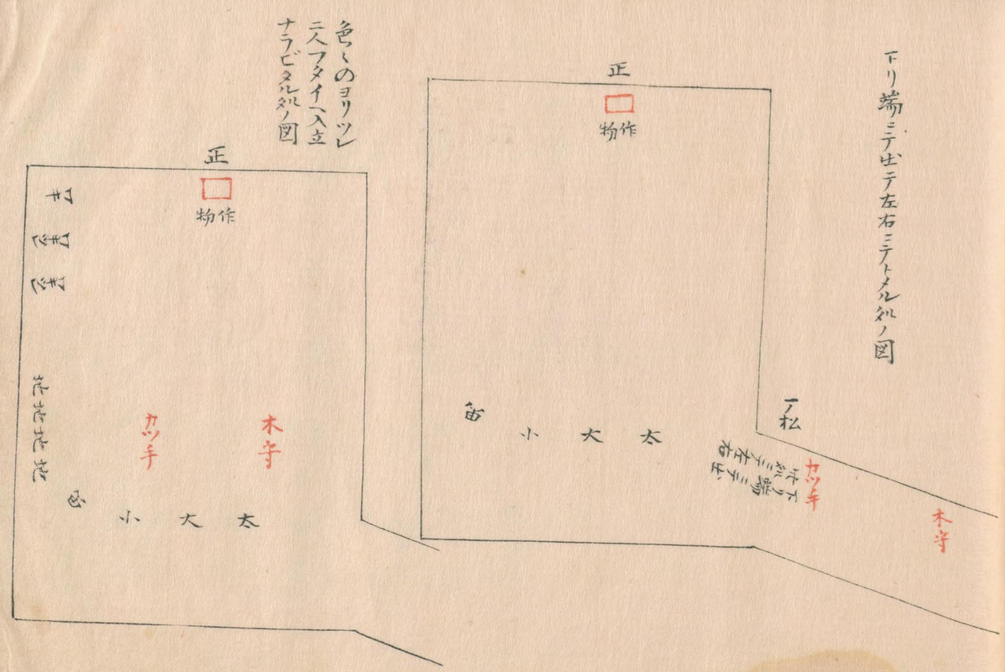
直ニ作り物ヘ向ニ二三足下リツヽムヲヘアテ作り物ヲ見

まれぬへし千本の山嶺を嵐の山ゆ帰を

ツヽムヲヘアテナカラ左右ヘ向ツカヒ見

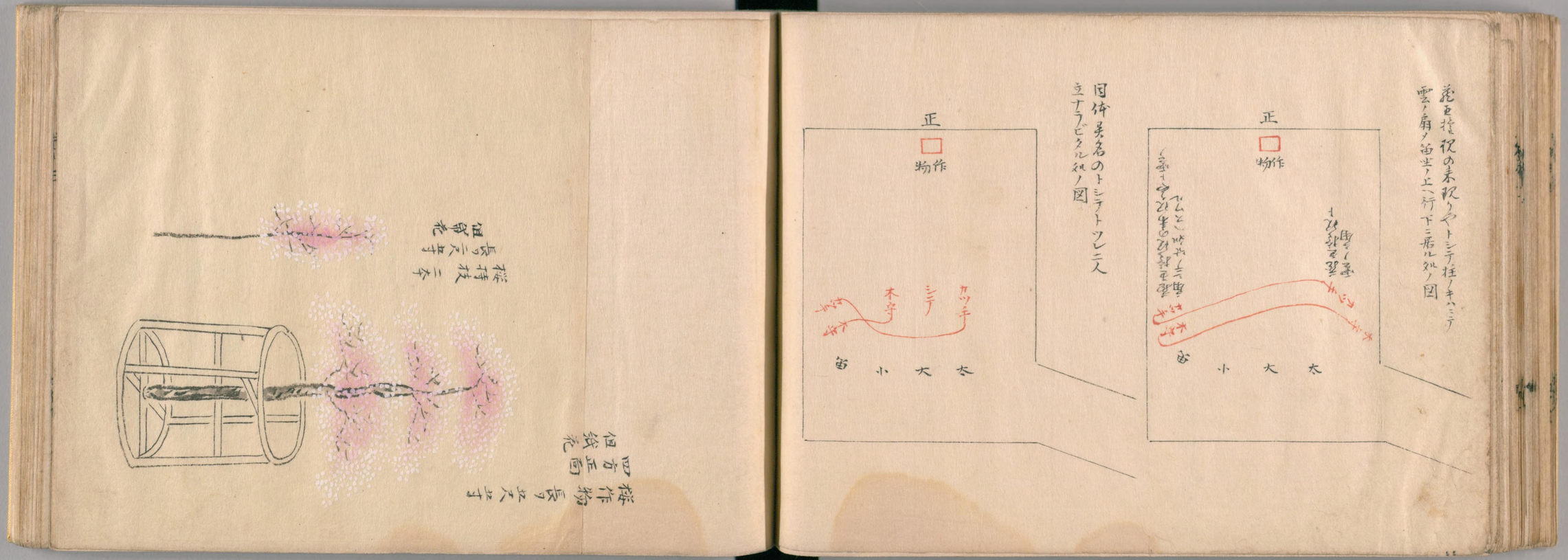
吹とも枝はなしさし 此日もまたに呉行の

正ヘ出スアト同断



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

シテ舞附

●扇前ニサシ帯右ニサゲテ持ツレヲ先ニタテ真ノ一声ニテ出橋掛ニテ
ツレト向合ツメ足ノ花守のともしやト謡フ●掃うか謡キリ正●
たねまれやツレト向合ニまもらうか謡キリフタイヘ入上置ノ右脇ニ
三足下リ足トメ正見ハ嵐の山のト謡フ●それ左返リ万十里ツレト向合
●花の錦タキノ字ヨリ左ノ足フミヒラキ左ヘハツノツレト入カワリ中ヘ行
足トメ正●さんれ見ハワキヘ●渇仰中ハワキヘ二足ツメルツメスモヨシ
●それもなうし山の正●実やふ富ハワキヘ●人をそ志つね正●さ
もまた花まワキヘおもねを二足ツメル●実やさしもそれ正●
それ社桜もワキヘ●実たのもしやツレト向合●ゆくゑそワ
キヘ山なりとも二足ツメル●花ハよも正●夫婦の神ハワキヘ●人ふ
なさしせ二足ツメル●さやられ岩屋の正●実相の花盛右ウ
ケ●つきくる法の正ヘ出シ出●嵐の山さくらヒラキ●なつミの川
の角ヘ行●まいぬの月の角トリ左廻リ●流ゆハ大井川シテ柱ノキ
ハニテ正ヘヒラキ●いさしなとツレヘ向合返シニ二足ツメル●嵐の風
ハ正●庭前の出●志ゐのヒラキ●あなの山桜右ノ方ヘ足トヒニ右
左中面ワキ見●ちりかかるしの左ノ足ヨリ二三足出作リ物ヘ
向●吹青枝も作リ物ヘ向キ下タヘトリ下タヨリ上ノ方ヘ作物見上テ
●此日もまてふ正ヘ向イテモ又西ノ方見テモ●よのまとまうせ
ワキヘ●ゆりもワキ坐ノ方ヘ行●山桜ちるくるワキ坐ノ前ニテ左ノ足
右ヘカケテ右ヘトリシテ柱ノ方向正ニ右ノ足フミヒラキ右ウケナカラ右ヘノリ辷
雲の寺右左ト拍子フミ左ノ足ヒキリ右ノ足フミヒラキ帯ステタ湯ヨリ見
ヨノバメシテ柱ノ方ヘ行●雨のくるまシテ柱ノキハニテ左ヘトリ正ヘヒラキ返シニ入

く神遊ひちるや舞の袖 神楽の
鼓声澄みく
くく羅綾の袂を翻し
かへしまつりかへ舞楽の秘曲を奏すれは
不思議や感応所よりめいほらの折から不
思議や南の方よりも吹くる風の音
香雲たなひきあまねくかしき金色の
光りかかやき渡れは蔵王権現現れ給
現はれ給ふや 和光利物の御姿
衆生済度の都を出て分陀利の
塵をはらひ 金胎両部の一足を
ひさけ 悪業の衆生の苦患を
払ひ 梅文虚空に御手をあけては
たちまち苦海の煩悩をはらひ

(朱書) 早笛ニ段橋掛リ一ノ松ニテヒラキ
(朱書) 七ツ拍子
(朱書) フメイノ内ヘ入リ
(朱書) 正ヘヒラキ
(朱書) 角ヘ行扇左ヘトリ
(朱書) 扇左リニテヨコニモチ左ノ手ト一
(朱書) シテ扇右ヘトリ正ニ左ヘニワリ
(朱書) シテ三左ノ足上ケ
(朱書) 中ニテ正先キヘ出両足リ両ツテ
(朱書) 頭ヘカケ
(朱書) ウヘヲ見
(朱書) 六ツ拍子
(朱書) 両袖左右ヘハラヒ

一面ノ業前ノ又ノ紀ニ有之スナハチ ☒ 此ヲ業ナリ
一面ノ三ハ四ツ六ナクサシシテ七ハ又ヤフニ七ヲ業ナリ
力様ニ両本附ニ認メテ此此ノ四ツハ一面ノ形ニテ云之

悪魔降伏乃志ゝまんれまゐつる
よ光明を放つて四生を照し花生を
守るちかひをあらわし子母勝手蔵
王権現 抑自身同時吳氏乃姿ひ
ゆきくとのくあ〻しれ山よりち
のほり花よたゞ事楯よかまつて
ぢかから寛を金乃峯れ光りも
やく手本乃様く花ゆ
ゆく春こそ久しきれ

右ウケ右ノ方ヘ出
サシウケ右ヘニウケ
大小ノ前ニテヒラキ
ニウ拍子
体ヲ入ル
正先ニテ左ヘ出ノ後ヘ出ヒカリ下ニ居正
右ウケ右ノ方正先ヘ出
左ヘ出ヲ左ヘ出ノ方ヘ出ヒカリ
左ヘ出ヲ左ヘ出ノ方ヘ出ヒカリ
右ノ足カケナカラ右ノ袖ヘキ
両袖ヘキナカラシテ柱ヘユキ
シテ柱ノキハシテ小出リ
両袖ヘ〻ナゲ
ヒラキ
左ノ袖カヘシ
右ウケトメ拍子袖モトシ角タヽミ入ル

半雛子ノ節 志ゆ〻の岩屋ゟ初ル

初ノツレ舞附

・帯カタケシテノ先ニ立真ノ一声ニテ出ノ松ニテ足トメシテ向ツメ足メ花ゆのト
謡フ・指ク分謡キリ正・種ゆやシテヘ向・糸色ゆ分謡キリフタイヘ
入中ヘ行足トメ正・ゆれを方シテヘ向・花の勝シテト入カワリ後見坐
ニテ帯後見ヘワタシ目付柱ノ方ヘ出足トメ正・実ノ花のまやシテヘ向・名称
らしのヲヘ・花ハよもちらし左ヘトリ留坐ノ正ヘ行目付柱ノ方向下ニ居・いさく
花をシテヘ向・其の風ハ目付柱ノ方ヘ立ス中入ニシテノアトニツキ入ル

逆弟

藍ノ具連男附
藍ノ具天女附
朱シテ附

大小坐付一畳甚至大宮大小前ニ置
次第

屋梅とふと織から錦く龍田
の神ふ糸ゝ雲 ワキ詞 桂昌ハ尚今ゝ
仕へ奉る法下也梅ゆ和列龍田
志明神ハ異神ふく所ニ居ル
此度君ゝ所帰を中只今龍田ふ
糸ゆ仕り此 屋形 國ニ此事ハ七
川乃都路ゆく 春深ゆ
海淀舟やまつ桂夜ゆく

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

此ノ粉雲遥き山城恵升手れ
下記も末うけし詠をむうし
になら坂ゆ龍田恵やすに清き
りけりし　一セイ二人　向合　サカキカタテ出ル　龍田河ハ
ツレシテノ先ニ立出ル幕ギハミテノ松明ニツフリ一ノ松ニテ又ニツフリシテヘ向其余ロキ能ノ通リ
しき織ぶく神無月色清
く秋のもみち哉　ツレ　正　紅葉れ
色も時めきてよし　向合　紅をそまる
氣久ク那　サカキオロシ　シテサシ　是ハ當社たつ
田恵里に住てひさし紅者明る

向合　なる坂志よく明から昔より神
前に住へ来り名にたゝる龍田の
神垣や宮路を通ひい清と和
久しきのむ和記も深うらす
悪我子代と祈る也　下記　比を
長月廿日何まり紅葉もいゝ
つらふ只園社夜恵よし紅な
里　上記　神なひ乃ミむろ恵き
しやくつるらん　龍田の

川志三つのいろは濁るとも
隔しな塵に海しいる神
恵すくに見うけは紅葉花れ
家はさ紀たれいろいへく
拓ひ志緑ぬ澄まつりいて（地ノ方ヘクツロギ立居 中ヘ行）
其神乃手向かなし（正）
（ワキ詞）いかに是なる火れ光なるは何
いく尋中へまに車のは
（シテ詞ワキヘ）こなたれすまていか何すふく

はそ（ワキ）（正）是ハ此所はしめて一
見の者ふてはい賓正へれ道志
るへして給りはへ（シテ）（ワキヘ）安きに間
の正事なる是こそ夜あふりは
乗るものにくはへ正道志る
へ中は屋し此方へ御有はへ
（ワキ）あらうれしや始く乗らふ（右ヘ少シイテ作物向）
はるふくは（シテ）なるに是こ
そ賓正にくはへ（ワキ）（正）承おすひ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

敵へまく仰報道をあらせめん
と天れうき橋に二神たゝすゝ
給ひ高砂御前我海中に沈
したゝしなひしより御前
をいつゝと見ていまゝ乃逆前
と名付を見くにと凡民をた
さ見得高二神忠始めよ里
今(ワキヘ)忠代まゝ此高なり
其(正)後國土たさ場りて御代

たいらうに成しかハ激兵ふの咱
神此御前我あつかりて所を
尊しや此御山にたさめく賢(ワキヘ)
のやまと号まなり
そ(エシテ)(正)もしく此にこのぬしより
し日名をいさきよ記激
まつり乃神忠社をいつゝ
禁とさへハ名我詩し新田
や月紅葉の八葉忘まなハ

ちほこれをさ記より照を日
新や名井の光りさしれる
次第の霧あ光つちすなほ
なる事も変こ焚たるみ
ハ志らを西志多からの山高ミ（ワキヘ）
よくしらしゐへや
上ロシキ地正
実や新田志神の名のく
寶の御ほこれ取しくハ求め
多て見せ給へ（シテ上）むつし（ワキヘ）

の棕人や影所しきたつこ
やすのもみち衣の千早振神
の祭をやめむと上日 颯こ乃給（正立右クウケ二三豆出）
志声ていとうと打浪志鼓と
れ取したま（ワキヘ）祭志神を我
取りと木綿（右ヘニバリ）四手絞なひろ
し榊葉絞うこひ夜よいり
て月志夜こ志も すゑやる（作物ソバニテ正ヒラキ）
入と見て矢まりもけ入と

作物へ入
天降りて見えけり　ツレ上ヲ　御山守
松は神路もさしこもりて
爰に入り給の枕より音楽
聞え花降り異香薫じて
るふしきはよく
上地　天女出羽　ノ松ニテ　正面
ツレトリ内へ入右ウケ　出ヒラキ舞拜
ひるかれて小忌衣の袖こそ
ゆらくるれ　後シテ上
天女舞トメ　スグニ謡
三段舞左右打込ヒラキスグニ　笛ノ上ヘ行下居
正セウギカカリ居
松にこまハ天
此国を守護し奉る也
祭れ神和光に出で給へり

田の神　上ウ　あるひハ天津み
そらハ神　シテ上　海にハ龍神
山よりは迦羅ことは
上ウ
いとも起まつもや　シテ下　驚か
しきまや灘祭　上ウ　かし
八千代の山鳥雲まり晴
ゆく日乃光りれてらしに天　引廻シオロス
れ御ほこそあらはれたり
シテ下　正
柳大日本国といはれ給ふ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1
ガラス使用

より神ハ本覚真女れこや
こ我出く和光同塵の所
くこちをつとも佛法流布
乃國出る屋しやれ君か
こや 上地 南無や帰命頂禮
大日覚王如来 シテ上 むかし
伊弉諾伊弉冊れみこと此
所身我うつたえく天思うま
ちしをふこわらり給ひ

上日 鉾ヲカブル右ノコシヲ引鉾先下ケ
すなハち活ほこ我にし
おろしまれハち御身をさし
おろし給ひ あをうなちら我 右ヨリ左ヘニツサグル下ヲサクル
かきなくしたくりなへハ身 右ヘフセテ正ノ先ヲ見ル
れ志ちまこりかこまれ海
西となまり シテ下 まれ 正出シ鉾カイコミ 法路清
日 出
きの國伊勢し海法くし四國 正ヒラキ
右ヘ廻リ
廻して八州志西とあらく大
八洲の西也名付天地人の三 シテ柱ニテ小廻リ正

回れ神ちみ(ヒラキ)ほこ神(右ウケ)面とも
の神神(左)なり(入)

連男　シテノ先ヘ出松明フリ出シテ向招待ノ通
一いくさき　地ノ方クツロキ立居
クリニシテトイツセウニ下イ松明下ニヲキ扇ヌキ持中入
楽屋ヘ入

天女　一松ニテ正向
楽ニ出あれてト露トリ内ヘ入右ウケ出ヒラキ達拝
三段舞左右折込ヒラキ直クニ笛上ヘ行下居

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

天女舞トメスクニ
ウタフ正セウキニカヘリ居

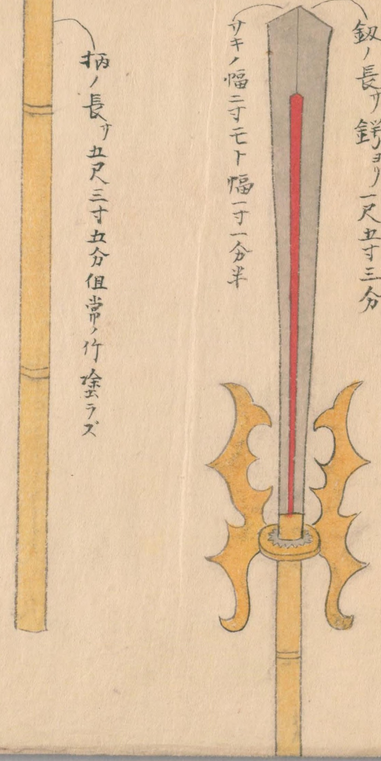
委附

抑これハ天地両界を守護しまるた
きまた神和光に出て新田の神
なるひハ天津ミそらの両界またハ
宝山くりからミたけいたくきまつ
れや警かしまれや飛ぶかしハ
ひく日山の雲きり晴ゆく日乃光
りのことくに天の両ほこハ
引廻シヲロス
あらハれたり正抑大日本国といつた神国
たつと神ハ本覚ましめのことを出て
和光国塵の両かたちもつとも佛
法流布の国たるへしやれ有りたや

南無や帰命の統大日覚王如来
むかし伊弉諾伊弉冊の子こと
比所ほこをうつたゑて天のうき
橋をふみつたり給ひすゑハ
所ほこをさしふろし利所ゆ
さしふろし給ひ所をうふたら代
かきくろ〳〵所くりぬへハ第の志たる
こゝとかたまつて国とあれり　まれり
沈海島きの国伊せし海ほくし
四国想して八州の国やあれて
大八洲の国と名付天地人は三才やる

ある事も比ほこの徳ありなる有かたや
倫数　舞倫キ正ニ角ヘ行キ角トリ左リ足リ大小ノ前ニテ
拍子　小廻リヒラキサシ足シ正ヘ出テ左ノチ第ヘソヘヒラキ
左リヘ足リ太鼓坐ニテ
小足リヒラキ右上ケ
あくに〳〵ハあらし海
あれハ〳〵さふから険しき世ノ
原ありしをほこの手風をやくと
なれてあし原をあき拂ひ引拵
たけぞ山とあらぬ足曳のやといひ
土ハさふから石か称ありしをほこ
のそさきれ所たゝとくたけぞた
いらかなるをなしか称乃土といひ
そ外東西南北十方をれさゑん

惡魔を志ゝ見て行豊にし京乃
国治りて御身をなりくるから
明きこの寶山に納えたてまつり
まいよち見るるやひのもとの
宝の山立国の神を見ら姫山に
新田乃神を五ほこを海もと
の神弥なる



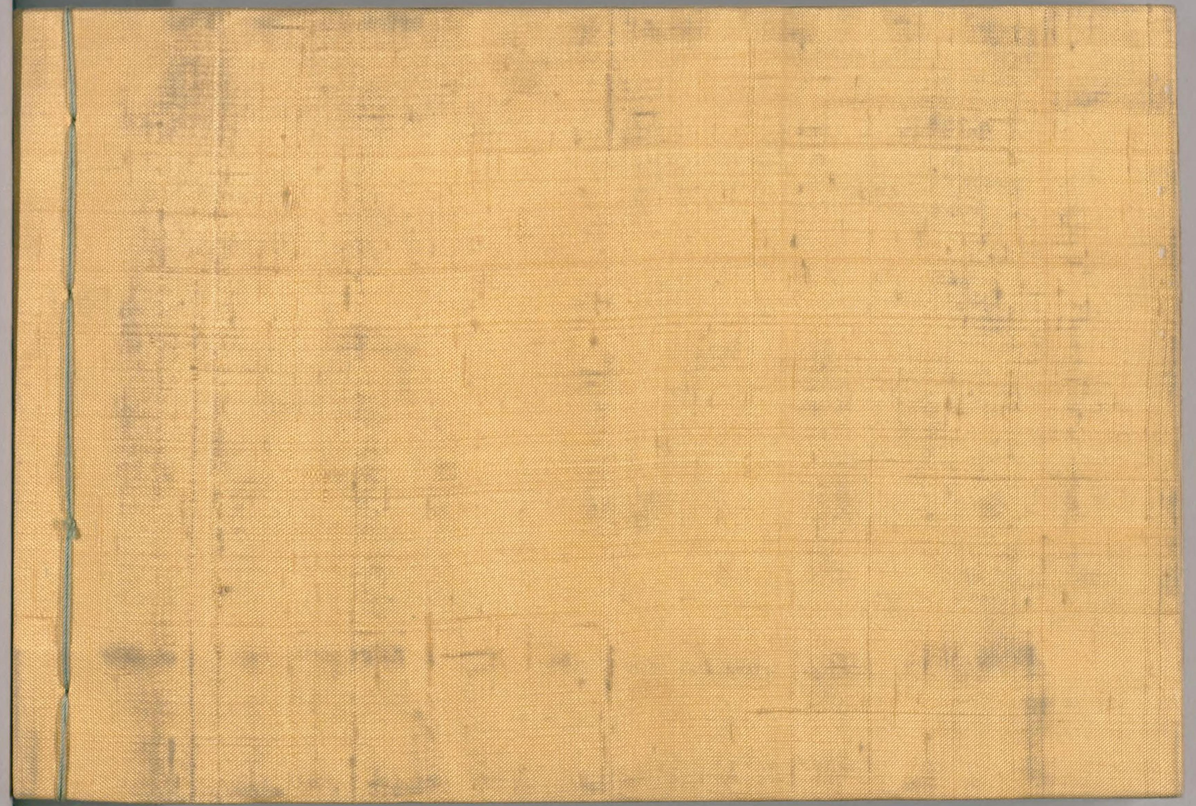
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用